公益社団法人日本薬剤学会

公益社団法人日本薬剤学会 2026 年度定時総会

1　日　　時　　2026 年 6 月 3 日（水）11：50～12：30

2　場　　所　　京都市勧業館 みやこめっせ　1F 第 1 会場
（京都府京都市左京区岡崎成勝寺町 9-1）

3　議　　案

第 1 号議案　2025 年度事業報告の件
第 2 号議案　2025 年度決算の件
第 3 号議案　2026-2027 年度役員選出の件
第 4 号議案　名誉会員選出の件

4　報告事項

1.　2026 年度事業計画の件
2.　2026 年度予算の件
3.　会員管理の件
4.　その他

以上

*以上の議案・報告事項ならびにその順序は予告なく変更される場合があることをご了承ください。

第 1 号議案

公益社団法人日本薬剤学会　2025 年度事業報告

（2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで）

公益目的事業 1「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発，研究の振興，調査研究並びに評価により，薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」

まえがき

今年度は公益社団法人としての責務を遂行するに当たり，上掲の「公益目的事業 1」を着実に推進するための事業計画を立案し，理事会を中心としたガバナンス体制の下，着実に事業の運用を図った．また，健全な財務基盤の確保も円滑な事業運営の課題であるが，事業ごとに精査を行い，こちらも適正運用の達成に努めた．

これらの事業の実施により，薬剤学の進歩およびその成果の社会への還元を通じて，医療の質の向上および国民の健康増進に寄与した．

会長　（楠原会長）

1　APSTJ 2025 推進事業

- 理事会主導により，日本薬剤学会のこれからのあり方“APSTJ 2025”の検討を行った．
- 国内外の関連学協会との交流事業を推進した．

2　国際標準医薬分業推進事業

- 国際標準的な医薬分業（完全分業あるいは強制分業）への移行について，必要な情報を整理しつつ，実施に向けての戦略を立案し，関連団体と連携しながら行政への働きかけを推進する．

副会長総務担当理事　（武田副会長）

1　学会賞等表彰事業

1.1	薬師メダル	受賞者　なし
1.2	学会賞	受賞者　尾関哲也
1.3	功績賞	受賞者　杉林堅次
1.4	奨励賞	受賞者　福田達也 岸本久直 前田仁志
1.5	タケル&アヤ・ヒグチ記念栄誉講演賞	受賞者　---当期設定なし---
1.6	タケル&アヤ・ヒグチ記念賞	受賞者　出口芳春
1.7	創剤特別賞	受賞者　なし
1.8	優秀論文賞	受賞者　なし
1.9	製剤の達人称号	受賞者　我藤勝彦 無敵幸二
1.10	国際フェロー称号	受賞者　なし

2　創剤開発・研究賞表彰事業

2.1	旭化成創剤開発技術賞	受賞者　山本浩之，香川千乃，三村尚志
	旭化成創剤開発技術賞（助成金）	受賞者　宮野哲也，　上田　廣
2.2	旭化成創剤研究奨励賞	受賞者　田口和明

渉外担当理事　（小暮理事）

1　学生主催シンポジウム事業

薬剤学に関わる学生の研究室・大学間を超えた活発な交流と，口頭発表能力やシンポジウム運営のノウハウの涵養を目的として，日本薬剤学会第 40 年会において学生主催シンポジウム「SNPEE*2025」（「“Co-creation and Innovation for development of new modality in pharmaceutics~新規創薬モダリティ開発に向けた異分野共創と技術革新”」）を開催した．

*SNPEE: Student Network for Pharmaceutical Education and Evolution

2　広報委員会事業

学会ウェブサイトの企画運営等を通して本学会の活動の広報を行うとともに，会員の拡大のために関連

諸領域の研究者への本学会のアピールを図った．また，毎月ニュースメールを配信し，イベント情報や最新情報を会員に届けた．「薬剤学」誌の編集委員会および他の学会内組織と連携し，ウェブサイトからの情報発信を活性化した．

3　医薬品の包装と情報分科会事業

薬剤学を支える包装・情報に関し，専門の研究者・技術者が協議し，本学会会員に情報発信を行うことを目的に，40 年会において医薬品包装シンポジウム「Patient-centric な医薬品包装を志向した臨･産･学･官の取組み」を開催した．

2025 年 5 月 22 日

4　教育分科会事業

薬剤学に関わる教育問題について，専門委員が協議して提言を行うほか，教育資料の企画，年会における「薬学教育シンポジウム」（2025 年度のシンポジウムタイトルとして，「Takeru and William I. Higuchi 兄弟の御業績とわが国の薬剤学への貢献」）を開催した．薬剤学に関わる教育問題について，専門委員が協議して提言を行うほか，教育資料の企画，年会における「薬学教育シンポジウム」（薬学コア・カリキュラム改訂：薬剤師教育における薬剤・製剤教育の進む道）を開催した．

2025 年 5 月 22 日

国際連携担当理事　（西川理事）

1　英語セミナー事業

国際共通言語である英語での討議能力を養うため，訪日した海外研究者・国内の研究者または英語教育専門家等を講師として招聘し，講演・ディスカッションの全てを英語で行う Global Education Seminar をオンラインで開催した．

1.1　第 1 回英語セミナー　　2025 年 10 月 8 日　参加者　　177 名

1.2　第 2 回英語セミナー　　2026 年 3 月 13 日　参加者　　114 名

2　AFPS（アジア薬科学連合）

オーストラリア，シドニーにおいて Conference AFPS2025 が開催された．

2025 年 12 月 3 日 - 5 日

3　FIP（国際薬学連合）

2025 年 11 月に FIP への退会届が受理され，2026 年 10 月をもって退会することとなった．

当年度に開催された会議への参加状況は以下の通り．

・第 53 回日本 FIP 連絡会議　　2025 年 7 月 18 日

・第 54 回日本 FIP 連絡会議　　2025 年 12 月 12 日

4　第 4 回日韓合同薬剤学若手研究会

韓国，ソウルにおいて第 4 回日韓若手薬剤学研究者ワークショップが開催された．

日本薬剤学会からは，3 名（黒澤俊樹先生，田原春徹先生，安藤大介先生）を派遣した．

2025 年 6 月 25 日 - 27 日

5　カンサス大学表敬訪問

タケル＆アヤ・ヒグチ記念賞の受賞者 2 名（2021 年度 小暮健太朗先生，2023 年度 石田竜弘先生）および楠原会長がカンサス大学記念講演の講演者として同大学を表敬訪問した．

6　EuPFI（欧州小児製剤イニシアティブ）

・5 月 12 日-14 日　Excipient World 2025（アメリカ，ワシントン DC）へ委員会から 1 名参加．小児用添加剤セッションにてパネリストとして登壇し，日本の医薬品添加物辞典を紹介し，デジタル化，英語化によるデータベースの国際的な統合について議論．

・9 月 16 日-18 日　第 17 回 EuPFI 年会（フランス，ボルドー）へ委員会から 3 名参加．ミニタブレットのパネルディスカッションに登壇し，発展途上国も含めた小児への受容性について議論．

・9 月 19 日　年会翌日に第 40 回 EuPFI Meeting（メンバーのみ対象とした年に 2 回の会議）へ参加し，味覚センサーや苦みのデータベース化，日本でのミニタブレットの剤形分類・名称についての取り組みを共有．

・EuPFI 年会での発表からのつながりで，第 6 回小児製剤研究会（2/12，東京にて開催）にて同一内容の発表を MSD へ打診．「プレバイミス®顆粒分包の開発・承認審査」という演題でミニタブレットのグローバル開発・承認審査の知見を国内にも共有いただいた．

・12 月 3 日-5 日　Asian Federation for Pharmaceutical Sciences Conference 2025（オーストラリア，シドニー）へ委員会から 1 名参加．APFi (Asia pediatric formulation initiative) 立ち上げに向けたパネルディスカッションに参加し，日本の調剤の現状について共有，議論した．今後 APFi のメンター・コラボレーターとなることが期待されている．

・1 月　経口吸収 FG から 2 名が EuPFI Biopharmaceutics Workstream (WS)へ参加することが決定．

・3 月 18 日-19 日　第 41 回 EuPFI Meeting（オンライン）へ参加．日本側から第 6 回小児製剤研究会の内容を共有．

定例会議

・EuPFI Age-appropriate Formulation WS の 2 か月ごとの会議に出席し，小児製剤の剤形について議論．
・EuPFI Chief Scientific Officer との会議を 2 か月ごとに開催し，EuPFI と日本との連携を包括的に議論．
上記 2 つの会議での議論により，第 18 回 EuPFI 年会（2026 年 9 月オーストリア，ザルツブルク）にて国内でのミニタブレットの剤形分類・名称についての取り組みを発表することが決定．
・EuPFI Excipient WS の月例会議．添加物辞典の英語化，デジタル化について継続議論．
・EuPFI Biopharmaceutics WS の定例会議．今後の活動方針について議論．
・小児製剤連携会議（本委員会メンバー及び小児製剤 FG 正副リーダー）のよる月例会議．会議の一部で国際連携について議論．

以上の各事業は，国際的な学術連携の推進および人材育成を通じて，薬剤学の進歩およびその成果の社会への還元を促進し，医療の質の向上および国民の健康増進に寄与した．

機関誌担当理事　（米持理事）

1　「薬剤学」編集委員会事業

「薬剤学」誌の企画編集と薬学を学んでいる若い学生を対象にした「薬と健康の週間」懸賞論文の選考を実施した．

2　投稿論文審査委員会事業

「薬剤学」誌への投稿論文の審査と，優秀論文賞の選考を行った．

3　学会誌出版事業

3.1　機関誌「薬剤学」

「薬剤学」編集委員会の担当する依頼原稿と投稿論文審査委員会の審査による一般論文で構成される「薬剤学」誌を以下のとおり発行した．

Vol. 85 No. 2　2025 年 4 月 1 日発行
Vol. 85 No. 3　2025 年 7 月 1 日発行
Vol. 85 No. 4　2025 年 10 月 1 日発行
Vol. 86 No. 1　2026 年 1 月 1 日発行

英文論文の受け付けも可能であり，積極的に英文投稿の促進を図った．

3.2　公式欧文誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology」

Vol. 106 (2025 年 4 月) ~ Vol. 117(2026 年 3 月) の計 12 巻をオンライン発行した．

技術・書籍担当理事　（小島理事）

1　製剤技術伝承講習会事業

- 製剤技術伝承委員会

製薬企業各社でのアウトソーシングの加速により，維持・発展が課題となっているわが国の製剤技術を次代の製剤研究者・技術者に継承するため，座学・実習の講習会を企画運営し，更に製剤の達人称号の選考も行った．

本事業は，薬剤学に関する知識の普及および研究水準の向上を通じて，関連分野の発展および社会への還元に寄与した．

1.1　第 34 回シミック製剤技術アカデミー／APSTJ 製剤技術伝承講習会

2025 年 7 月 10 日 - 11 日（第 1 部）	大谷大学ハルカスキャンパス	参加者	21 名
2025 年 10 月 2 日 - 3 日（第 2 部）	名城大学ナゴヤドーム前キャンパス	参加者	22 名
2025 年 12 月 18 日 - 19 日（第 3 部）	名城大学ナゴヤドーム前キャンパス	参加者	21 名

1.2　第 27 回 APSTJ 製剤技術伝承実習講習会

「評価技術を基盤とした創薬のための製剤設計戦略Ⅱ」

2025 年 8 月 28 日 - 29 日　会場：日本大学薬学部　参加者　28 名

1.3　第 28 回 APSTJ 製剤技術伝承実習講習会

「経口固形製剤の製造工程の基礎と実際」

2025 年 11 月 20 日 - 21 日　会場：フロイント産業　参加者　26 名

2　製剤技師認定事業

医薬品メーカー等において製剤に携わる研究･開発･製造担当者で，日常業務の遂行上必要とされる共通の基礎的かつ専門的事項及び法規･制度の学識を修得している者を「製剤技師」として認定を行った．また，被認定者の学会への入会を推進するとともに，これら認定製剤技師の企業内での職能・役割アッ

プについて相互研鑽を図れる機会の提供を検討した．今期の開催と認定者は以下の通り．

2.1　第 16 回製剤技師認定試験　　受験者　20 名　　合格者　17 名

2025 年 11 月 15 日　　東京会場：味覚糖 UHA 館 TKP 浜松町カンファレンスセンター

大阪会場：TKP 新大阪ビジネスセンター

3　出版委員会事業

本学会の事業に関連する書籍等の企画編集を行った．

3.1　昨年度に引き続き，薬剤学会フォーカスグループ（FG）の活動に伴う各グループの代表的テーマを総説的にまとめた書籍の企画出版を計画した．

3.2　Pharm Tech Japan，じほう，「産学連携コンソーシアム（仮称）」の連載を企画した．

3.3　その他，薬剤学に関連した書籍等の出版について検討した．

製剤・創剤セミナー担当理事　（山本理事）

1　製剤・創剤セミナー事業

大学・製薬企業・医療機関などにおいて製剤技術に関わる研究者・学生が一堂に集い，医療・薬剤学に関し，サイエンスとテクノロジーの観点のみならず刻々と変化する時代のニーズも合わせて議論する合宿形式の討論会「製剤・創剤セミナー」を以下の通り開催した．

本事業は，薬剤学に関する知識の普及および研究水準の向上に加え，産学官の技術交流の促進を通じて，関連分野の発展および社会への還元に寄与した．

1.1　第 50 回製剤・創剤セミナー　　参加者　103 名

テーマ　『新時代の医療・創薬を支える製剤・創剤』

開催日時：2025 年 9 月 17 日- 18 日

開催場所：東レ総合研修センター

公開市民講演会事業担当理事　（寺田理事）

1　公開市民講演会事業

一般市民を対象とした公開市民講演会を企画，今期は以下の通りオンデマンド配信した．

本事業は，一般市民への知識普及を通じて，医療への理解促進および健康意識の向上に寄与した．

2025 年度公開市民講演会「地域で支える医療の未来 ～DX・在宅医療と薬剤師の役割」

配信期間：2025 年 9 月 25 日（木）－ 2026 年 3 月 31 日　　アクセス数　258 件

FG 担当理事　（山下理事）

1　FG 統括委員会事業

共通の研究目的等による分野横断的なユニットである各フォーカスグループ（FG）を統括する委員会として，事業・予算の管理を行い，各 FG に対する助言や FG・理事会間のリエゾンを担当した．

また，FG 統括委員会では各 FG の活動状況を確認し，継続・廃止などの審議を行った．

本事業は，以下に示す各 FG の活動を中心に，一般市民への知識普及を通じて，医療への理解促進および健康意識の向上に寄与した．

- 【経口吸収 FG】

薬物の経口吸収に関わる生体膜機能，消化管での移動特性，消化管内の水分量変化，消化管内での薬物や製剤の溶解や析出，体内動態，モデリング＆シミュレーション，製剤設計による吸収の改善や臨床開発戦略に至るまでの幅広い領域を統合し，新たな経口吸収研究を開拓する．2025 年度は，FG 合宿討論会（10/2-3）を企画・運営した．また，小児製剤コンソーシアム委員会および EuPFI（欧州小児製剤コンソーシアム）Biopharmaceutics Workstream（WS）にメンバー2 名を派遣し，小児製剤開発における生物薬剤学的課題に関する情報交換を開始した．2026 年度は年会 Deep Dive Session の企画運営，FG 合宿討論会の開催，ならびに EuPFI Biopharmaceutics WS への継続参加を検討する．

- 【経皮投与製剤 FG】

経皮投与製剤に関わる最新の知見や技術情報を共有するとともに，経皮投与製剤を取り扱って研究開発に携わっている研究者間で議論する場を提供する．日本薬剤学第 40 年会（2025 年 5 月 24 日）にて，経肺・経鼻 FG との協奏シンポジウムにて経肺経鼻，経皮投与製剤の潮流：ニューモダリティ創薬の game changer となるか？を企画・開催した．また，2026 年 3 月 10 日には第 15 回経皮適用製剤 FG シンポジウムを企画・運営し，7 名のシンポジストによる講演が行われ，参加者は 100 名を超えた．

次年度も，年度と同様に経皮適用製剤 FG の開催やラウンドテーブルセッションへの提案だけ

でなく，必要に応じて他の学会との共催シンポジウムも計画する予定である．

- 【経肺経鼻投与製剤 FG】

吸入剤および経鼻投与剤について，粒子設計や製剤特性評価，開発の基礎研究，製薬会社における開発の実例，投与デバイス開発の動向，薬物動態，治療に関する臨床現場での問題点について意見収集と情報交換を行う場を提供している．2025 年 5 月の日本薬剤学会第 40 年会では FG 競争シンポジウムを企画・運営し，「経肺経鼻，経皮投与製剤の潮流： ニューモダリティ創薬の game changer となるか？」というテーマでニューモダリティの新たなデリバリーオプションとして現在進められている開発動向を共有するとともに，その可能性と課題を議論した．2025 年 10 月にはオンライン開催の研究会を実施し，「吸入剤による製剤・動態・シミュレーション研究に関して」というテーマで国内外の演者が登壇し，製剤設計アプローチ，臨床ニーズ，レギュレーションの課題など多様なテーマを対象に情報共有するとともに，深い議論を行った．2026 年度も研究会を企画し，FG 所属メンバーの情報共有・議論を促していく．

- 【核酸・遺伝子医薬 FG】

核酸医薬ならびに遺伝子医薬の実用化に必須である，核酸医薬・遺伝子医薬の設計，合成，分析，体内動態（ADME），安定化や標的指向化のための化学的・製剤学的工夫，臨床・非臨床試験，レギュラトリーサイエンスなどを議論する場を提供するため，以下に示す活動を実施した.①日本薬剤学会第 40 年会ラウンドテーブル 5「 COVID-19 以外の感染症やがんに対する mRNA 医薬の実用化」（2025 年 5 月 24 日，講師 : 井上貴雄先生（国立医薬品食品衛生研究所），秋永士朗先生（NANO MRNA 株式会社）佐藤悠介先生（北海道大学大学院 薬学研究院））を実施し，アカデミアや企業が保有する画期的な創薬シーズや DDS 技術をいかにして社会実装するか，産官学一体となって将来の成功に向けた議論を深めた．②日本薬学会第 146 年会における超分子薬剤学 FG とのジョイントシンポジウム「精密デリバリー×ナノテクノロジー：融合する視点で描く核酸医療の未来像 」（2026 年 3 月 28 日，講師：三瓶悠（科学大生命理工），板倉祥子（東京理大薬），根岸洋一（東京薬大薬），中村孝司（金沢大院薬）を実施し，核酸化学，細胞外微粒子，刺激応答性ナノ材料，アクティブターゲティング LNP を専門とする研究者にご登壇いただき，分野横断的な議論を展開した．次年度も我が国発の核酸・遺伝子医薬の研究開発推進に繋がる活動を継続的に行っていく．

- 【薬物相互作用・個別化医療 FG 】

本 FG では，創薬研究者（基礎・臨床開発）・臨床薬剤師・審査サイドなど種々の立場から広く意見を求め，交流する場を提供し，薬物相互作用及び個別化医療に関して科学に基づいたコンセンサスを得ることを目標としている．そのためには，継続的に FG メンバーが核となって一同に会して議論できる場を提供すべきと考え, 2025 年度は 2026 年開催の日本薬剤学会年会におけるディープダイブセッションに向けた計画を進めるとともに，共催シンポジウム）への応募も進めた．日本医療薬学会では基礎と臨床の両面から捉える病態時における薬物動態の変動，日本臨床薬理学会では先端技術で予測する薬物吸収動態の個体内・個体間変動にフォーカスする企画とし，本年度末時点で採択の連絡を待っている状況である．

- 【医療 ZD と完全分業 FG】

薬剤師が医師処方箋のレビューを含めた真の調剤を実践し，そのリスク管理により医療における Zero Defect が達成されるよう，医薬分立を基盤としたシステム・教育の構築を目指してきた．これまで活動で一定の成果が得られたと判断し，FG メンバー間での協議により今後の活動を中止することとした．

- 【DDS 製剤臨床応用 FG】

本邦発の DDS 製剤の臨床応用に向けた課題について，産官学の垣根を越えて議論するため．以下に示す活動を実施した.①第 12 回合宿討論会（日本発 DDS 製剤開発への挑戦と展望（特別講演 : 2 件，依頼講演 : 1 件，情報提供 : 5 件），11 月 14-15 日，帝京大学箱根セミナーハウス）また,合宿討論会のレポートを学会誌「薬剤学に寄稿した．②日本薬学会第 146 年会ジョイントシンポジウム（産学連携で切り拓くアカデミア発 DDS 技術の実用化，3 月 27 日）③執行部メンバー企画会議（日本薬剤学会第 40 年会，第 12 回合宿討論会，日本薬学会第 146 年会）本年度の活動において DDS 製剤開発に関する議論を深めることができた，さらに，各イベント終了後に執行部メンバーで振り返りを行い，今後の活動方針について議論し，次年度の活動方針を決定した．

- 【物性 FG】

医薬品原薬，製剤原材料ならびに製剤の物性評価技術にフォーカスをあて，技術の発展や

創薬/創剤への展開についての議論・提言を行った．今年度は，日本薬剤学会第 40 年会にて，企業研究者 3 名に登壇頂き，DX やデジタルツールに関するラウンドテーブルを開催した．また，医薬品原薬・製剤の熱分析に関する最新技術を取り扱うセミナーを 2 月 27 日に，大阪医科薬科大学にて開催し，聴講者は 70 名超と成功裏に終えることが出来た．さらに，若手研究者の研修・啓発・育成のために，物性に関する伝承実習講習会のサポートを行った．また，㈱じほう社の PHAEMA TECH JAPAN の連載企画「分析・解析 Up To Date」への寄稿および著者選定に協力した．

- 【臨床製剤 FG】

臨床製剤関係シンポジウムの支援，さまざまな学会との合同セミナー，FG のメンバーでの集合研修や院内製剤をテーマにした病院・薬局薬剤師向けのセミナーの開催を企画した．臨床製剤の市販化の促進のための活動を進めるために，院内製剤に関する認定薬剤師等のさまざまな制度に関する是非について議論を進めた．これらの活動を通して臨床製剤 FG の活動を広報するとともに，個別化医療を支援する新規な臨床製剤開発を目指した．また，国際薬学連合（FIP）との連携を深め，国際的な認識との調和を図った．

- 【超分子薬剤学 FG】

超分子とは，複数の分子が共有結合以外の結合により，秩序だって集合した分子のことをいい，薬剤学領域でもリポソーム，細胞外小胞，多糖類，アルブミンなど多数存在する．学問として理工学領域主体の「超分子化学」と「薬剤学」との融合による「超分子薬剤学」を立ち上げ，次世代の薬剤学を創製することを目的に活動していく．2025 年度は，昨年度に引き続き，超分子薬剤学と IT の融合を目指した活動を継続し，①日本薬剤学会第 40 年会のラウンドテーブルに採択され，「細胞外小胞を薬にするため越えるべき課題とその克服策とは？」について議論した．加えて，②薬学会第 146 年会 公募シンポジウムにも採択され，「精密デリバリー×ナノテクノロジー：融合する視点で描く核酸医療の未来像」について，標的臓器や細胞への精密な送達を目指す新技術の知見を共有することで，新たな視点から核酸医薬の次なる進化と治療概念の創出に向けた分野横断的な議論ができた．

上記の２つ活動を通して超分子薬剤学 FG の活動を広報することを達成できた．一方で，第 4 回超分子薬剤学 FG シンポジウムの開催はできなかったが，FG 執行部メンバーで話し合い，次年度に開催する方向で調整することとした．

- 【小児製剤 FG】

小児用医薬品開発の阻害要因を整理し，レギュラトリーサイエンス学会誌に投稿した（16 巻（2026 年）2 号掲載予定）．株式会社じほうとの協働による PHARM TECH JAPAN の連載企画(2025 年 3,4,5,12 月号，2026 年 1 月号)として，小児製剤の課題と開発に関する内容を提供し，オンライン版にも掲載された（2025 年 8 月 21 日～12 月 25 日）　．小児用剤形として注目されているミニタブレットの剤形分類および名称付与に関して，日本製薬工業協会および日本ジェネリック製薬協会と連携し，PMDA に要望書を提出するとともに，議論を開始した．本活動については株式会社医薬経済社の取材を受け，RISFAX(2025 年 6 月 25 日付)の記事に掲載された．また，令和５年度厚生労働科学指定研究事業小児がんおよび小児希少難治性疾患の医薬品の早期実用化を目指した新たな審査基準提言のための研究において，小児剤形，添加物，剤形加工および情報提供に関する内容の提言案作成に向けて，研究代表者の先生方と連携した．本内容は当 FG が主催する第 6 回小児製剤研究会にて発表いただいた．国際的に共通するテーマであるミニタブレット等については，2025 年度に発足した小児製剤コンソーシアム委員会（当 FG から 3 名参画）と連携し，EuPFI（欧州小児製剤コンソーシアム）Workstreams を通じて情報収集および交換を行い，小児製剤開発における課題解決に取り組んでいる．当 FG 内に小児製剤 FG 学生チームを発足し，薬学部学生と協働してアドボカシー活動を実施した．具体的には，医療的ケア児との座談会の企画，小児製剤 FG ホームページの開設による情報発信，および第 6 回小児製剤研究会で発表を行った．第 6 回小児製剤研究会（2026 年 2 月開催）では，小児製剤の課題・最新技術・レギュレーション等について，薬剤学会会員および小児医療関係者 100 名以上と共有・議論した．さらに，小児製剤の課題および当 FG の活動について，第 15 回レギュラトリーサイエンス学会学術大会，第 50 回製剤・創剤セミナー，第 42 回製剤と粒子設計シンポジウム（粉体工学会・製剤と粒子設計部会），製剤技師の会，第 7 回薬事研究会（富山県薬事研究会）において発表を行った．

- 【デジタル製剤学 FG】

人工知能に代表される各種 informatics，数理モデリング，さらに量子化学・分子動力学・流体力学計算に代表される分子・物理シミュレーションなどのデジタル技術と製剤学分野の融合領域について，最新知見を集約・共有し，本分野の推進・発展に資する提言ならびに議論を行う．2025 年 5 月に開催された日本薬剤学会第 40 年会において，ラウンドテーブル「CMC の革新的合理化：プロセス・マテリアルズインフォマティクスが拓く未来像」を企画・実施した．本ラウンドテーブルでは，アカデミアおよび企業の研究者 3 名より，CMC 領域における先進的なデジタル技術とその社会実装に関する講演が行われた．製剤開発・CMC 業務への応用可能性を中心とした具体的な質疑応答と活発な議論が行われ，データ駆動型アプローチの実務的意義と課題について理解を深める機会となった．また，2026 年 3 月には第 3 回となる当 FG 主催シンポジウムを開催した．30 以上の組織から計 54 名が参加し，産学から 5 名の講師を招いて，製剤開発および CMC 分野におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の最新動向，ならびにデジタル技術の実装事例に関する講演と，それらの応用展開に向けた議論を行った．当該報告については，2026 年夏以降に薬剤学誌にて実施予定である．次年度も，2025 年 3 月の日本薬学会第 145 年会にて，シンポジウム「医薬品開発を加速する CMC・製剤研究 DX — 最先端研究と産産・産学共創モデル —」と題したシンポジウムを開催する．また，次年度も，FG 主催シンポジウムを企画・開催するとともに，日本薬剤学会第 41 年会における Deep Dive Session 等を通じて，CMC 領域における AI for Science の実現，インフォマティクスや数理モデル，シミュレーション技術の製剤学応用などをテーマに，発展の著しいデジタル技術の実装・社会展開を見据えた議論を深めていく予定である．

2　製剤設計における種差の問題検討会（略称：製剤種差検討会）事業

2016 年度に発足した製剤種差検討会は，入会した会員（団体）が製剤設計における種差の問題に関する経験事例の報告を行い，種差が影響する要因について皆で討論し整理することを目的としている．具体的には年に数回，東京地区と京都地区で交互に対面による事例報告会を開催してきたが，コロナ禍の影響により，2020 年 1 月の事例報告会以後は休止状態となっている．2025 年度は 2 回事例報告会を再開したい（第 10 回は京都地区，第 11 回は東京地区交互）．さらに，本検討会の将来的な活動方針・方向性について世話人会を中心に議論を進めた．

制度改革担当理事　（柳井理事）

1　制度改革担当事業（制度改革委員会）

現行制度を絶えず検証し，公益社団法人として，持続性のある制度として整備した．公益社団法人として主体的で統制された本学会の運営体制を構築し，理事会が学会事務局と業務委託先（学会支援機構，公認会計士）を統括管理できる体制を推進した．また，規程等と事業との整合性を確認し，必要に応じて見直しを提案し，理事会における本事業の検証を推進した．具体的には，

1.1 会員規程や職員規程の見直しを行った．

1.2 個人情報保護規程を整備した．

1.3 職員退職金規程を整備した．

年会長（深水第 40 年会長）

1　年会事業

本学会最大の学術集会「年会」の企画運営を行った．年会では，口頭およびポスター発表による一般講演の他に，特別講演および各種の受賞講演による啓発活動，シンポジウムやラウンドテーブルでのディスカッションを通じて参加者の研鑽事業を行った．また，企業や関連機関のランチョンセミナーや企業展示会など，多彩なプログラムにより，産学官の連携を深めた．

本事業は，薬剤学に関する知識の普及および研究水準の向上を通じて，関連分野の発展および社会への還元に寄与した．

1.1　第 40 年会

「Patient-centric に臨・産・学・官が協奏する薬剤学」

2025 年 5 月 22 日 -24 日　　場所：TFT ホール（東京都江東区有明 3-4-10） TFT ビル西館 2 階

学会運営（会長，事務局）

1　理事会

学会の業務執行の決定，理事の職務執行の監督等を行う機関であり，法人のガバナンスを担う中心的な機能を果たすべく，以下のとおり理事会を開催した．

第 1 回理事会　　2025 年 4 月 30 日

第 2 回理事会　　2025 年 5 月 22 日
第 3 回理事会　　2025 年 10 月 8 日
第 4 回理事会　　2026 年 1 月 19 日

なお，学会運営に係る一部業務については外部機関へ委託しており，理事会の管理監督のもと，適正に運用した. 本法人の事業運営にあたっては, 法令および定款に基づき, 透明性および適正性の確保に努めた.

2　定時総会（代議員総会）

正会員から選挙で選ばれた代議員で構成される学会の最高の決議機関である総会を以下のとおり開催した.

2.1　定時総会　　2025 年 5 月 22 日（13:45-14:30）オンライン形式　　場所：TFT ビル（有明）
出席者数：146 名（委任状 64 名，議決権行使 3 名を含む）

3　年会実施計画（次年度以降）

第 41 年会（2026 年度）以降の年会について，下記年会長を中心に実施計画に基づき準備を進めた.

3.1　第 41 年会（2026 年度）　藤田卓也 年会長
3.2　第 42 年会（2027 年度）　川上亘作 年会長

なお，2025 年度事業報告には，「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない.
また，当法人の役員及び関係者に対し，特別の利益供与は行っていない.
さらに，関連当事者との取引については，適正な手続きに基づき実施しており，特記すべき重要な事項はない.

以　上

（参考）事業別収支（損益ベース）一覧

2025年4月1日から2026年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会　　（単位：円）

事業名	経常収益計	経常費用計	当期経常増減額	備考
公益目的事業				
APSTJ2025推進事業	0	0	0	
国際標準医薬分業事業	0	0	0	
学会賞等表彰事業	0	2,051,620	△ 2,051,620	
創剤開発・研究賞表彰事業	1,267,366	1,267,366	0	
広報委員会事業	262,000	0	262,000	
医薬品の包装と情報分科会事業	0	99,739	△ 99,739	
教育分科会事業	0	4,706	△ 4,706	
学生シンポジウム事業	0	13,200	△ 13,200	
国際学会等協力事業	0	2,106,686	△ 2,106,686	
英語セミナー事業	0	145,786	△ 145,786	
機関紙出版事業	1,406,822	5,584,589	△ 4,177,767	
「薬剤学」編集委員会事業	0	167,415	△ 167,415	
投稿論文審査委員会事業	0	0	0	
出版委員会事業	17,484	0	17,484	
製剤技術伝承講習会事業	5,536,890	2,537,666	2,999,224	
製剤技術伝承実習講習会事業	4,279,000	2,791,034	1,487,966	
製剤技師認定事業	1,023,000	856,886	166,114	
製剤・創剤セミナー事業	6,403,000	3,927,546	2,475,454	
公開市民講演会事業	0	74,412	△ 74,412	
FG統括委員会事業（全FG含む）	4,294,057	3,034,338	1,259,719	
製剤種差検討会事業	0	0	0	
制度改革事業	0	0	0	
年会事業	37,122,196	27,996,801	9,125,395	
公益目的事業共通	11,535,192	18,150,341	△ 6,615,149	
小計	73,147,007	70,810,131	2,336,876	
法人会計	11,241,640	8,144,841	3,096,799	
合計	84,388,647	78,954,972	5,433,675	

貸借対照表

2026年 3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
１．流動資産			
現金預金	38,852,925	29,952,753	8,900,172
未収金	0	24,256	△ 24,256
前払金	143,613	143,550	63
前払費用	1,483,378	356,400	1,126,978
流動資産合計	40,479,916	30,476,959	10,002,957
２．固定資産			
(1) 基本財産			
預金	20,000,000	20,000,000	0
基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
(2) 特定資産			
ﾀｹﾙ&ｱﾔ・ﾋｸﾞﾁ基金	30,000,000	30,000,000	0
ﾀｹﾙ&ｱﾔ・ﾋｸﾞﾁ記念表彰事業積立預金	1,900,146	3,464,842	△ 1,564,696
創剤開発・研究賞基金	1,151,820	1,069,186	82,634
機関誌出版事業積立預金	6,320,000	7,900,000	△ 1,580,000
特定資産合計	39,371,966	42,434,028	△ 3,062,062
(3) その他固定資産			
什器備品	1	1	0
敷金	271,000	271,000	0
その他固定資産合計	271,001	271,001	0
固定資産合計	59,642,967	62,705,029	△ 3,062,062
資産合計	100,122,883	93,181,988	6,940,895
Ⅱ　負債の部			
１．流動負債			
未払金	2,325,488	2,017,515	307,973
前受会費	19,125,000	17,944,150	1,180,850
預り金	99,519	163,756	△ 64,237
未払消費税等	1,100,000	1,100,000	0
流動負債合計	22,650,007	21,225,421	1,424,586
負債合計	22,650,007	21,225,421	1,424,586
Ⅲ　正味財産の部			
１．指定正味財産			
寄付金	21,151,820	21,069,186	82,634
指定正味財産合計	21,151,820	21,069,186	82,634
（うち基本財産への充当額）	(20,000,000)	(20,000,000)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(1,151,820)	(1,069,186)	(82,634)
２．一般正味財産	56,321,056	50,887,381	5,433,675
（うち特定資産への充当額）	(38,220,146)	(41,364,842)	(△3,144,696)
正味財産合計	77,472,876	71,956,567	5,516,309
負債及び正味財産合計	100,122,883	93,181,988	6,940,895

貸借対照表内訳表

2026年 3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会　　（単位：円）

科　　目	合計	公益目的事業会計	法人会計
Ⅰ　資産の部			
１．流動資産			
現金預金	38,852,925	5,487,958	33,364,967
前払金	143,613	0	143,613
前払費用	1,483,378	1,126,978	356,400
流動資産合計	40,479,916	6,614,936	33,864,980
２．固定資産			
(1) 基本財産			
預金	20,000,000	0	20,000,000
基本財産合計	20,000,000	0	20,000,000
(2) 特定資産			
ﾀｹﾙ&ｱﾔ・ﾋｸﾞﾁ基金	30,000,000	30,000,000	0
ﾀｹﾙ&ｱﾔ・ﾋｸﾞﾁ記念表彰事業積立預金	1,900,146	1,900,146	0
創剤開発・研究賞基金	1,151,820	1,151,820	0
機関誌出版事業積立預金	6,320,000	6,320,000	0
特定資産合計	39,371,966	39,371,966	0
(3) その他固定資産			
什器備品	1	0	1
敷金	271,000	0	271,000
その他固定資産合計	271,001	0	271,001
固定資産合計	59,642,967	39,371,966	20,271,001
資産合計	100,122,883	45,986,902	54,135,981
Ⅱ　負債の部			
１．流動負債			
未払金	2,325,488	294,796	2,030,692
前受会費	19,125,000	9,562,500	9,562,500
預り金	99,519	21,862	77,657
未払消費税等	1,100,000	0	1,100,000
流動負債合計	22,650,007	9,879,158	12,770,849
負債合計	22,650,007	9,879,158	12,770,849
Ⅲ　正味財産の部			
１．指定正味財産			
寄付金	21,151,820	1,151,820	20,000,000
指定正味財産合計	21,151,820	1,151,820	20,000,000
（うち基本財産への充当額）	(20,000,000)	(0)	(20,000,000)
（うち特定資産への充当額）	(1,151,820)	(1,151,820)	(0)
２．一般正味財産	56,321,056	34,955,924	21,365,132
（うち特定資産への充当額）	(38,220,146)	(38,220,146)	(0)
正味財産合計	77,472,876	36,107,744	41,365,132
負債及び正味財産合計	100,122,883	45,986,902	54,135,981

正味財産増減計算書

2025年 4月 1日から2026年 3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	39,103	11,818	27,285
基本財産受取利息	39,103	11,818	27,285
特定資産運用益	62,770	18,972	43,798
特定資産受取利息	62,770	18,972	43,798
受取会費	22,375,000	22,001,000	374,000
正会員受取会費	11,959,000	11,275,000	684,000
学生会員受取会費	1,856,000	1,686,000	170,000
賛助会員受取会費	8,560,000	9,040,000	△ 480,000
事業収益	61,546,895	63,562,865	△ 2,015,970
学術集会・委員会等事業収益	57,869,623	58,719,146	△ 849,523
参加費	30,607,500	29,446,500	1,161,000
昼食代	54,390	94,000	△ 39,610
意見交換会費	4,379,100	4,456,100	△ 77,000
助成金・補助金	150,000	1,418,965	△ 1,268,965
寄付金・協賛金	1,648,000	2,060,000	△ 412,000
セミナー協賛金	3,940,000	4,280,000	△ 340,000
講演要旨集販売料	11,000	0	11,000
広告料	1,102,400	1,394,581	△ 292,181
出展料	15,871,033	15,569,000	302,033
投稿料・別刷料	106,200	0	106,200
学会誌等出版事業収益	1,386,906	1,306,675	80,231
購読料	418,434	435,271	△ 16,837
投稿料・別刷料	152,279	73,810	78,469
許諾料・使用料	666,193	647,594	18,599
指定正味財産からの振替	150,000	150,000	0
学会賞等表彰事業	1,267,366	1,986,044	△ 718,678
助成金・補助金	0	300,000	△ 300,000
指定正味財産からの振替	1,267,366	1,686,044	△ 418,678
製剤技師認定事業	1,023,000	1,551,000	△ 528,000
受験料	649,000	1,067,000	△ 418,000
認定料	374,000	484,000	△ 110,000
受取寄付金	169,000	0	169,000
寄付金・補助金	169,000	0	169,000
雑収益	195,879	39,853	156,026
受取利息	43,079	9,002	34,077
雑収益	152,800	30,851	121,949
経常収益計	84,388,647	85,634,508	△ 1,245,861
(2) 経常費用			
事業費	70,810,131	74,681,753	△ 3,871,622
給料手当	9,047,087	9,130,108	△ 83,021
臨時雇賃金	1,103,632	780,833	322,799
法定福利費	1,414,994	1,629,763	△ 214,769
人材派遣費	924,325	861,489	62,836
福利厚生費	7,784	16,696	△ 8,912
会場費	15,184,375	13,186,564	1,997,811
旅費交通費	3,536,072	4,686,555	△ 1,150,483
会議費	1,585,410	1,413,267	172,143
意見交換会費	7,035,883	6,594,200	441,683
賞状・賞牌・副賞費	2,724,774	2,270,437	454,337
通信運搬費	3,343,105	2,795,975	547,130
ウエブサイト管	1,425,575	1,402,904	22,671
消耗品費	1,942,998	2,663,215	△ 720,217
印刷製本費	6,501,171	6,365,874	135,297
賃借料	1,696,566	2,037,384	△ 340,818
保管料	89,155	19,800	69,355
保険料	61,020	61,020	0
諸謝金	2,894,662	3,082,011	△ 187,349
租税公課	5,250	0	5,250
支払負担金	1,891,032	1,751,576	139,456
業務委託費	7,822,146	13,529,458	△ 5,707,312

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
雑費	573,115	402,624	170,491
管理費	8,144,841	7,802,603	342,238
給料手当	2,489,858	2,393,100	96,758
退職手当	0	145,750	△ 145,750
法定福利費	389,422	427,179	△ 37,757
人材派遣費	254,384	225,806	28,578
福利厚生費	2,142	4,376	△ 2,234
旅費交通費	116,824	114,396	2,428
会議費	78,269	12,492	65,777
通信運搬費	402,885	348,265	54,620
ウエブサイト管	291,221	272,858	18,363
研修費	49,500	0	49,500
消耗品費	88,814	94,179	△ 5,365
印刷製本費	0	23,332	△ 23,332
賃借料	466,914	433,108	33,806
租税公課	1,815,000	1,610,880	204,120
業務委託費	418,148	419,530	△ 1,382
公認会計士報酬	990,000	990,000	0
雑費	291,460	287,352	4,108
経常費用計	78,954,972	82,484,356	△ 3,529,384
当期経常増減額	5,433,675	3,150,152	2,283,523
２．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	5,433,675	3,150,152	2,283,523
一般正味財産期首残高	50,887,381	47,737,229	3,150,152
一般正味財産期末残高	56,321,056	50,887,381	5,433,675
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
受取寄付金	1,500,000	1,500,000	0
一般正味財産への振替額	△ 1,417,366	△ 1,836,044	418,678
創剤開発・研究賞基金	△ 1,417,366	△ 1,836,044	418,678
当期指定正味財産増減額	82,634	△ 336,044	418,678
指定正味財産期首残高	21,069,186	21,405,230	△ 336,044
指定正味財産期末残高	21,151,820	21,069,186	82,634
Ⅲ　正味財産期末残高	77,472,876	71,956,567	5,516,309

正味財産増減計算書内訳表

2025年 4月 1日から2026年 3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会　　（単位：円）

科　　目	合計	公益目的事業会計	法人会計
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	39,103	0	39,103
基本財産受取利息	39,103	0	39,103
特定資産運用益	62,770	62,770	0
特定資産受取利息	62,770	62,770	0
受取会費	22,375,000	11,187,500	11,187,500
正会員受取会費	11,959,000	5,979,500	5,979,500
学生会員受取会費	1,856,000	928,000	928,000
賛助会員受取会費	8,560,000	4,280,000	4,280,000
事業収益	61,546,895	61,546,895	0
学術集会・委員会等事業収益	57,869,623	57,869,623	0
参加費	30,607,500	30,607,500	0
昼食代	54,390	54,390	0
意見交換会費	4,379,100	4,379,100	0
助成金・補助金	150,000	150,000	0
寄付金・協賛金	1,648,000	1,648,000	0
セミナー協賛金	3,940,000	3,940,000	0
講演要旨集販売料	11,000	11,000	0
広告料	1,102,400	1,102,400	0
出展料	15,871,033	15,871,033	0
投稿料・別刷料	106,200	106,200	0
学会誌等出版事業収益	1,386,906	1,386,906	0
購読料	418,434	418,434	0
投稿料・別刷料	152,279	152,279	0
許諾料・使用料	666,193	666,193	0
指定正味財産からの振替	150,000	150,000	0
学会賞等表彰事業	1,267,366	1,267,366	0
指定正味財産からの振替	1,267,366	1,267,366	0
製剤技師認定事業	1,023,000	1,023,000	0
受験料	649,000	649,000	0
認定料	374,000	374,000	0
受取寄付金	169,000	169,000	0
寄付金・補助金	169,000	169,000	0
雑収益	195,879	180,842	15,037
受取利息	43,079	28,042	15,037
雑収益	152,800	152,800	0
経常収益計	84,388,647	73,147,007	11,241,640
(2) 経常費用			
事業費	70,810,131	70,810,131	0
給料手当	9,047,087	9,047,087	0
臨時雇賃金	1,103,632	1,103,632	0
法定福利費	1,414,994	1,414,994	0
人材派遣費	924,325	924,325	0
福利厚生費	7,784	7,784	0
会場費	15,184,375	15,184,375	0
旅費交通費	3,536,072	3,536,072	0
会議費	1,585,410	1,585,410	0
意見交換会費	7,035,883	7,035,883	0
賞状・賞牌・副賞費	2,724,774	2,724,774	0
通信運搬費	3,343,105	3,343,105	0
ウエブサイト管	1,425,575	1,425,575	0
消耗品費	1,942,998	1,942,998	0
印刷製本費	6,501,171	6,501,171	0
賃借料	1,696,566	1,696,566	0
保管料	89,155	89,155	0
保険料	61,020	61,020	0
諸謝金	2,894,662	2,894,662	0
租税公課	5,250	5,250	0
支払負担金	1,891,032	1,891,032	0
業務委託費	7,822,146	7,822,146	0
雑費	573,115	573,115	0
管理費	8,144,841	0	8,144,841
給料手当	2,489,858	0	2,489,858
法定福利費	389,422	0	389,422
人材派遣費	254,384	0	254,384
福利厚生費	2,142	0	2,142

公益社団法人日本薬剤学会　（単位：円）

科　　目	合計	公益目的事業会計	法人会計
旅費交通費	116,824	0	116,824
会議費	78,269	0	78,269
通信運搬費	402,885	0	402,885
ウエブサイト管	291,221	0	291,221
研修費	49,500	0	49,500
消耗品費	88,814	0	88,814
賃借料	466,914	0	466,914
租税公課	1,815,000	0	1,815,000
業務委託費	418,148	0	418,148
公認会計士報酬	990,000	0	990,000
雑費	291,460	0	291,460
経常費用計	78,954,972	70,810,131	8,144,841
当期経常増減額	5,433,675	2,336,876	3,096,799
２．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	5,433,675	2,336,876	3,096,799
一般正味財産期首残高	50,887,381	32,619,048	18,268,333
一般正味財産期末残高	56,321,056	34,955,924	21,365,132
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
受取寄付金	1,500,000	1,500,000	0
一般正味財産への振替額	△ 1,417,366	△ 1,417,366	0
創剤開発・研究賞基金	△ 1,417,366	△ 1,417,366	0
当期指定正味財産増減額	82,634	82,634	0
指定正味財産期首残高	21,069,186	1,069,186	20,000,000
指定正味財産期末残高	21,151,820	1,151,820	20,000,000
Ⅲ　正味財産期末残高	77,472,876	36,107,744	41,365,132

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針
(1)固定資産の減価償却
固定資産の減価償却は定額法によっている。
(2)消費税等の会計処理
消費税の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高
基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。 （単位：円）

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	20,000,000	0	0	20,000,000
小計	20,000,000	0	0	20,000,000
特定資産				
ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金	30,000,000	0		30,000,000
ﾀｹﾙ&ｱﾔ・ﾋｸﾞﾁ記念表彰事業積立預金	3,464,842		1,564,696	1,900,146
創剤開発・研究賞積立金	1,069,186	1,500,000	1,417,366	1,151,820
機関誌出版事業積立預金	7,900,000		1,580,000	6,320,000
小計	42,434,028	1,500,000	4,562,062	39,371,966
合計	62,434,028	1,500,000	4,562,062	59,371,966

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳
基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。 （単位：円）

科目	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
基本財産				
定期預金	20,000,000	20,000,000	0	(0)
小計	20,000,000	20,000,000	0	(0)
特定資産				
ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金	30,000,000	0	30,000,000	(0)
ﾀｹﾙ&ｱﾔ・ﾋｸﾞﾁ記念表彰事業積立預金	1,900,146		1,900,146	(0)
創剤開発・研究賞積立金	1,151,820	1,151,820		(0)
機関誌出版事業積立預金	6,320,000	0	6,320,000	(0)
小計	39,371,966	1,151,820	38,220,146	(0)
合計	59,371,966	21,151,820	38,220,146	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。（単位：円）

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	254,880	254,879	1
合計	254,880	254,879	1

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。 （単位：円）

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上
スカラシップ・七つ星助成金（年会）	（公財）永井記念薬学国際交流財団	0	150,000	150,000	0	注）
合計		0	150,000	150,000	0	

※注）いずれも当該年度内に目的たる支出が完了するため、貸借対照表上の記載はない。

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は，次のとおりである。

内　　容	金　額
経常収益への振替額	
事業収益	
学会誌等出版事業収益	
創剤開発・研究賞積立金	150,000
学会賞等表彰事業	
創剤開発・研究賞積立金	1,267,366
	1,417,366

附属明細書

1. 基本財産および特定資産の明細
財務諸表の注記2および3に記載しているので、内容の記載を省略している。

2. 引当金の明細 （単位：円）

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
なし	0	0	0	0	0

以上

財産目録
2026年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会　（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金預金			38,852,925
	現金	現金	事務局手許現金	46,096
	預金	普通預金		10,560,295
		三菱UFJ/江戸川橋	運転資金として	9,030,785
		三菱UFJ/江戸川橋(ｾﾐﾅｰ)	同上	0
		三住信/本店	同上	1,529,510
		郵振/会費	同上	17,917,513
		郵振/講習会	同上	4,186,060
		ゆうちょ総合	同上	6,142,961
	前払金	事務所賃料	法人運営の前払分	143,613
	前払費用	FIP年会費、会計ソフト利用料	法人運営の前払分	1,483,378
流動資産合計				40,479,916
(固定資産)				
基本財産			公益目的事業に必要なその他の活動の用	20,000,000
	預金		に供する財産であり、運用益を管理費に使用	20,000,000
		(普通)三住信/本店		20,000,000
特定資産				39,371,966
	ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金		公益目的保有財産であり、運用益を公益	30,000,000
		(普通)三住信/本店	目的事業(ﾋｸﾞﾁ記念各賞表彰事業)に使用	30,000,000
	ﾀｹﾙ&ｱﾔ・ﾋｸﾞﾁ記念表彰事業積立預金		公益充実資金であり公益目的事業に使用	1,900,146
		郵振/会費	(学会賞等表彰事業)に使用	1,900,146
	創剤開発・研究賞積立金		公益目的事業(創剤開発・研究賞表彰事業)に使用	1,151,820
		(普通)三住信/本店		1,151,820
	機関誌出版事業積立預金		公益充実資金であり公益目的事業	6,320,000
		郵振/会費	(機関紙出版事業)に使用	6,320,000
その他固定資産				271,001
	什器備品	パソコン	法人の管理運営に供している資産	1
	敷金	事務所借室学会ｾﾝﾀｰﾋﾞﾙ	法人の管理運営に供している資産	271,000
固定資産合計				59,642,967
資産合計				100,122,883
(流動負債)				
	未払金	事務委託費、給与、通信運搬費等	公益目的事業及び法人運営の未払分	2,325,488
	前受会費	次年度以降会費	公益目的事業及び法人運営の前受分	19,125,000
	預り金	謝金・給与源泉	公益目的事業及び法人運営の未払分	99,519
	未払消費税等	未払消費税等	当年度納付額概算計上額	1,100,000
流動負債合計				22,650,007
負債合計				22,650,007
正味財産				77,472,876

確認書

2026 年 4 月 23 日

公益社団法人日本薬剤学会
会長　楠原　洋之　殿

馬目公認会計士事務所

公認会計士・税理士　馬目　利昭

１．確認の方法と概要

私は、公益社団法人日本薬剤学会の 2025 年度（2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで）の財務諸表等、すなわち、貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録について、会計帳簿、会計伝票、原資証憑等を閲覧し、役職員への質問等の手続を行い、決算内容を吟味し、様式、表示の確認を実施しました。

２．意見

確認の結果、私は、公益社団法人日本薬剤学会の会計帳簿等と上記財務諸表等の数値は整合しており、財務諸表の様式、表示に関して、公益法人会計基準に準拠し、重要な点で問題はないものと判断しました。

以　上

監査報告書

公益社団法人　日本薬剤学会
会長　楠原　洋之　殿

2026 年 4 月 24 日
公益社団法人　日本薬剤学会

監事　岡本　浩一
岡本　浩一 (2026年4月24日 15:42:24 GMT+9)

監事　森部　久仁一
森部　久仁一 (2026年4月24日 17:19:05 GMT+9)

私たちは、2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までの 2025 年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1　監査の方法の概要

（1）会計監査について、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。

（2）業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2　監査意見

（1）収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、財務諸表に対する注記及び附属明細書は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。

（2）事業報告書及び附則明細書の内容は真実であると認める。

（3）理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

公益社団法人日本薬剤学会　2026-2027 年度役員（案）

2024-2025 年度役員 任期　2024 年 5 月 23 日～2026 年度定時総会		2026-2027 年度役員（案） 任期　2026 年 6 月 4 日～2028 年度定時総会	
理事		理事	
会長	楠原洋之		秋田英万
副会長	武田真莉子		石田竜弘
	小暮健太朗		川上　茂
	小島宏行		小島宏行 [3]
	寺田智祐		高田龍平
	西川元也		武田真莉子 [1,2]
	福田誠人		寺田智祐
	柳井薫雄		登美斉俊
	山下富義		樋口ゆり子
	山本浩充		兵頭健治
	米持悦生		深水啓朗
	以上 11 名	外部理事	奥田　豊
			以上 12 名
監事	岡本浩一	監事	岡本浩一
	森部久仁一		森部久仁一
	以上 2 名	外部監事	丸山一雄
			以上 3 名

1　理事会推薦による候補者

2　会長候補者
日本薬剤学会における学会運営をはじめ、中長期的な運営課題への対応が求められていることから、安定的かつ円滑な運営を確保するため、現副会長の武田真莉子氏を理事会推薦理事（会長候補）として推薦いたします。
なお、同氏は現在 2 期目の任期にあるため、「細則 15 条＜役員の任期＞理事の重任の上限を 2 期とする。ただし、総会において特に必要と認めた理事の重任の上限は 3 期とする。」に基づき、任期についても併せてご審議くださいますようお願い申し上げます。

3　副会長候補者

第4号議案

名誉会員一覧

氏名	会長歴
小西　良士	第3代会長
戸口　始	第11代会長
園部　尚	第16代会長

名誉会員候補者一覧

氏名	会長歴
岡田　弘晃	第18代会長

※2026/4/1時点で80歳以上、会長歴がある会員

報告事項1

公益社団法人日本薬剤学会　2026 年度事業計画

（2026 年 4 月 1 日から 2027 年 3 月 31 日まで）

はじめに

1985 年に任意団体として設立された本学会は，2015 年に創立 30 周年の節目の年を迎えた．この間，2006 年に文部科学大臣より社団法人としての設立認可を，2012 年には内閣総理大臣より公益社団法人としての移行認定を受け，科学の発展とともに社会貢献を目指した活動を行うことが求められている．本学会の事業は定款に定める以下の各事業を総称して「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発，研究の振興，調査研究並びに評価により，薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」として認定を受けており，理事会は別紙に詳述するこれらの事業を，公益法人としてのガバナンス体制の下に実施する．

（1）　学術集会，研修会，講習会等の開催
（2）　機関誌，学術雑誌，その他出版物の刊行
（3）　研究の奨励及び研究業績の表彰
（4）　国内外の関連学協会等との連絡及び協力
（5）　研究及び調査
（6）　薬剤学に関する学識及び技術等の認定
（7）　その他この法人の目的を達成するために必要な事業

基本方針

1　公益社団法人へ移行後丸 14 年を経過し，特に引き続き財務面，ガバナンス面での確固たる体制の整備に注力するとともに，代議員制の定着を図る．
2　日本の薬剤学に関するサイエンスレベルの向上を図るとともに，新規医薬品の開発及び医療現場における医薬品の適正使用への取り組みを推進する．
3　医学・工学をはじめとする関連諸領域との連携をより緊密なものとし，学際的な研究協力を推進することによって，製剤・DDS 等における新しい技術開発に積極的に参画する．
4　産官学一体となった活動を通じ，医薬品の有効性と安全性を担保するための規制上の問題に関して公益的な立場から提言を行う．
5　薬剤師の職能の向上を目指して，国際標準的な医薬分業を推進する．
6　学会活動の国際化を目指して，国際学会および他国の薬剤学関連の学会との協力体制を構築する．
7　薬剤学の知識・技術を基盤として，機能性食品や化粧品などの開発，適正使用への取り組みを支援する．
8　2010 年度より発足した製剤技師認定制度の社会的認知度を向上させるとともに，各企業への製剤技術の普及・伝承に注力する．
9　共通の研究目的等による分野横断的なユニットであるフォーカスグループによる活動を強化する．

公益目的事業１「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発，研究の振興，調査研究並びに評価により，薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」

会長　（楠原会長）

1　APSTJ 2035 推進事業

- 理事会主導により，日本薬剤学会のこれからのあり方“APSTJ 2035”の検討を行う．
- 国内外の関連学協会との交流事業を推進する．

副会長総務担当理事　（武田副会長）

1　学会賞等表彰事業

- 学会賞選考委員会
- タケル&アヤ・ヒグチ記念各賞選考委員会
- 理事会の推薦，決議

1.1　薬師メダル

薬剤学分野の科学・技術と薬剤師職能を統合化したシステム薬剤学に関して，卓抜した業績を有する者を理事会の推薦により表彰する．

1.2　学会賞

薬剤学，製剤学，製剤技術並びに医療薬剤学の発展に関し卓抜した業績を有する者を表彰する．

1.3　功績賞

本学会の運営・発展への貢献，薬剤学教育への貢献，薬剤学，製剤学，製剤技術並びに医療薬剤学の振興への貢献を行った者を表彰する．

1.4　奨励賞

薬剤学，製剤学，製剤技術並びに医療薬剤学の基礎及び応用に関し，独創的な研究業績を挙げつつあり，これらの分野の将来を担うことが期待される若手研究者を表彰する．

1.5　タケル&アヤ・ヒグチ記念栄誉講演賞（西暦偶数年度に実施）

故タケル・ヒグチ教授の薬剤学・製剤学分野における学問上，教育上，医療上並びに医薬品工業上の発展に対する偉大な功績，更に故アヤ夫人の功を記念し，同記念栄誉講演の講師を表彰する．

1.6　タケル&アヤ・ヒグチ記念賞（西暦奇数年度に実施）

薬剤学・製剤学分野における学問上，教育上，医療上，医薬品工業上の発展に顕著な功績を挙げ，受賞を励みにして更なる活躍が期待される者を表彰する．

1.7　創剤特別賞

国際的に特に顕著な評価を受けた有形・無形の創剤を創成した者を臨時に表彰する．

1.8　優秀論文賞

機関誌「薬剤学」及び公式欧文誌"Journal of Drug Delivery Science & Technology"に掲載された優秀な論文の著者を表彰する．

1.9　製剤の達人称号

医薬品製剤技術の研究開発に長年にわたり従事し，高い技術を確立した者を表彰する．

1.10　国際フェロー称号

薬剤学関連領域で国際的に特に顕著な業績を上げた会員，本学会の国際賞を受賞した外国人研究者等を表彰する．

2　創剤開発・研究賞表彰事業

- 旭化成各賞選考委員会

2.1　旭化成創剤開発技術賞

国際的な製剤の品質に関する考え方の変貌に応える製剤・創剤開発の基礎及び応用に関するハード及びソフトの優れた研究を対象として表彰する．

2.2　旭化成創剤研究奨励賞

製剤の機能化，最適な投与方法とそれに合った剤形開発，製剤の処方研究によって目標とする新規製剤の開発に顕著に貢献した者を対象として表彰する．

渉外担当理事　（小暮理事）

1　学生主催シンポジウム事業

- SNPEE2026 実行委員会

薬剤学に関わる学生の研究室・大学間を超えた活発な交流と，口頭発表能力やシンポジウム運

営のノウハウの涵養を目的として，日本薬剤学会第 41 年会において学生主催シンポジウム「SNPEE2026*」（「“From Laboratory to Society: Realizing the Value of Pharmaceutics”「研究室から社会へ : 薬剤学の価値を実現する”」）を開催する．研究室で得られた知見が社会的価値へとつながる過程に注目し，基礎から応用，さらに実装までを幅広く議論する予定である．学生の自由な発想と企業研究者の実践的知見の融合から革新的創薬の開発を加速する機会の提供を目的とする．

*SNPEE: Student Network for Pharmaceutical Education and Evolution

2　広報委員会事業

学会ウェブサイトの企画運営等を通して本学会の活動の広報を行うとともに，会員の拡大のために関連諸領域の研究者への本学会のアピールを図る．また，毎月ニュースメールを配信し，イベント情報や最新情報を会員に届ける．「薬剤学」誌の編集委員会および他の学会内組織と連携し，ウェブサイトからの情報発信を活性化させる．

3　医薬品の包装と情報分科会事業

薬剤学を支える包装・情報に関し，専門の研究者・技術者が協議し，本学会会員に情報発信を行うことを目的に，41 年会において医薬品包装シンポジウム「10 年後の社会・医療環境を見据えた医薬品包装の将来像(仮)」を開催する．

4　教育分科会事業

薬剤学に関わる教育問題について，専門委員が協議して提言を行うほか，教育資料の企画，年会における「薬学教育シンポジウム」（2026 年度のシンポジウムタイトルとして，「薬剤師のキャリアパス教(仮)」を予定）を企画実行する．

国際連携担当理事　（西川理事）

1　英語セミナー事業

国際共通言語である英語での討議能力を養うため，訪日した海外研究者・国内の研究者または英語教育専門家等を講師として招聘し，講演・ディスカッションの全てを英語で行う Global Education Seminar を企画する．全国の大学・企業・研究機関から多くの学生・若手研究者が参加することを期待して，年に 2 回オンライン開催する．留学生をはじめとした外国人研究者にも参加を促し，外国人参加者と日本人参加者の比率が半々となるようなグローバルなセミナーを目指す．

2　国際学会等協力事業

- AFPS（アジア薬科学連合）
  次回は 2027 年に Conference AFPS2027 が開催される（開催地未定）. Conference AFPS2027 に派遣する講演者について検討する．
- 第 5 回日韓合同薬剤学若手研究会
  第 5 回日韓合同薬剤学若手研究会（開催時期，開催地未定）に向けた対応を協議する．

3　小児製剤コンソーシアム

European Paediatric Formulation Initiative（EuPFI）との Consortium Agreement の締結に伴い，EuPFI を中心とした国際機関との連携のもと，小児製剤に関する研究および情報交換を推進するため，以下の活動を実施する．

- EuPFI Workstream 月例会議への参加
- EuPFI 全体会議（年 2 回）への参加
- EuPFI 年会等の国際学会・会議での議論

機関誌担当理事　（米持理事）

1　「薬剤学」編集委員会事業

「薬剤学」誌の企画編集と薬学を学んでいる若い学生を対象にした「薬と健康の週間」懸賞論文の選考を行う．

2　投稿論文審査委員会事業

「薬剤学」誌への投稿論文の審査と，優秀論文賞の選考を行う．

3　学会誌出版事業

3.1　機関誌「薬剤学」

「薬剤学」編集委員会の担当する依頼原稿と投稿論文審査委員会の審査による一般論文で構成される「薬剤学」誌を以下のとおり発行する．

Vol. 86 No. 2　2026 年 4 月 1 日発行
Vol. 86 No. 3　2026 年 7 月 1 日発行

Vol. 86 No. 4　2026 年 10 月 1 日発行
Vol. 87 No. 1　2027 年 1 月 1 日発行
将来の Impact facto 取得を目指し，積極的に論文投稿の促進を図る．

3.2　公式欧文誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology」
Vol. 118 (2026 年 4 月) ~ Vol. 129(2027 年 3 月) の計 12 巻をオンライン発行する．

技術・書籍担当理事　（小島理事）

1　製剤技術伝承講習会事業

- 製剤技術伝承委員会
製薬企業各社でのアウトソーシングの加速により，滅失が懸念されているわが国の製剤技術を次代の製剤研究者・技術者に継承するため，座学・実習の講習会を企画運営する．更に製剤の達人称号の選考も行う．今期の開催予定は次のとおり．

1.1　第 35 回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会
「経口製剤・非経口製剤の製剤設計と製造法」
2026 年 6 - 12 月に 3 回に分けて開催予定　　会場：未定

1.2　第 29 回製剤技術伝承実習講習会
「難溶性薬物の物性評価ならびに製剤設計」または「製剤設計の基盤となる化合物の物性評価」
2026 年 8– 9 月頃を予定　　会場：未定

1.3　第 30 回製剤技術伝承実習講習会
「経口固形製剤の製造工程の基礎と実際」
2027 年 1 月頃を予定　　会場：フロイント産業（予定）

1.4　2027 年度に製剤技術伝承実習講習会『無菌製剤製造における留意点』を開催する方向で検討を進める．2026 年度は準備委員会を立ち上げ、企画立案を開始する予定である．

2　製剤技師認定事業

- 製剤技師認定委員会
医薬品メーカー等において製剤に携わる研究･開発･製造担当者で，日常業務の遂行上必要とされる共通の基礎的かつ専門的事項及び法規･制度の学識を修得している者を「製剤技師」として認定する．過去 16 回で 377 名の認定者が誕生している．また，被認定者の学会への入会を推進するとともに，これら認定製剤技師の企業内での職能・役割アップについて相互研鑽を図れる機会の提供を検討していく．

第 17 回製剤技師認定試験
2026 年 11 月 14 日　　東京／大阪（予定）

3　出版委員会事業
本学会の事業に関連する書籍等の企画編集を行う．

3.1　昨年度に引き続き，薬剤学会フォーカスグループ（FG）の活動に伴う各グループの代表的テーマを総説的にまとめた書籍の企画出版を計画する．

3.2　Pharm Tech Japan，じほう，「産学連携コンソーシアム（仮称）」の連載を企画する．

3.3　その他，薬剤学に関連した書籍等の出版について検討を行う．

製剤・創剤セミナー担当理事　（山本理事）

1　製剤・創剤セミナー事業

- 製剤・創剤セミナー実行委員会
大学・製薬企業・医療機関などにおいて製剤技術に関わる研究者・学生が一堂に集い，医療・薬剤学に関し，サイエンスとテクノロジーの観点のみならず刻々と変化する時代のニーズも合わせて議論する合宿形式の討論会「製剤・創剤セミナー」の企画運営を行う．

1.1　第 51 回製剤・創剤セミナー
テーマ　精密・先制医療に挑む製剤・創剤
開催日時：2026 年 9 月 8 日-9 日
開催場所：淡路夢舞台国際会議場（兵庫県淡路市夢舞台 1 番地）

公開市民講演会事業担当理事　（寺田理事）

1　公開市民講演会事業
ホームページに一般市民向けの情報を公開する．一般市民を対象とした公開市民講演会を企画・開催する．今期の開催予定は次のとおりとし，オンデマンド配信とする．

2026 年 9 月 25 日（金）　世界薬剤師の日

FG 担当理事　（山下理事）

1　FG 統括委員会事業

共通の研究目的等による分野横断的なユニットである各フォーカスグループ（FG）を統括する委員会として，事業・予算の管理を行い，各 FG に対する助言や FG・理事会間のリエゾンを担当する．

FG 統括委員会では各 FG の活動状況を確認し，継続・廃止などの審議を行う．

- 【経口吸収 FG】

薬物の経口吸収に関わる生体膜機能，消化管での移動特性，消化管内の水分量変化，消化管内での薬物や製剤の溶解や析出，体内動態，モデリング＆シミュレーション，製剤設計による吸収の改善や臨床開発戦略に至るまでの幅広い領域を統合し，新たな経口吸収研究を開拓する．2025 年度は，経口吸収基礎講習会及び FG 合宿討論会（10/2-3）を企画・運営した．また，他の FG と協力しながら年会ラウンドテーブルセッション，第 35 回日本医療薬学会年会の公募シンポジウムの提案も行った（結果はともに不採用）．2026 年度は CPHI Japan 2026 の製剤開発カンファレンスにて最新の経口吸収研究トレンドを概説する講演を実施予定である．2025 年度に引き続き，FG 合宿討論会は開催を検討する．

- 【経皮投与製剤 FG】

経皮投与製剤に関わる最新の知見および技術情報を共有するとともに，経皮投与製剤を取り扱い研究開発に携わる研究者間で議論する場を提供する．日本薬剤学会第 40 年会にラウンドテーブルセッションの提案を行ったが不採択となったものの，同大会において経肺経鼻 FG と共に，「協奏 FG シンポジウム 経肺経鼻・経皮投与製剤の潮流：ニューモダリティ創薬の game changer となるか？」を開催することができた（5 月 24 日）． 2026 年 3 月には経皮投与製剤 FG シンポジウムの開催を予定している． 2026 年度は，2025 年度に引き続き皮適用製剤 FG の開催やラウンドテーブルセッションへの提案に加え，必要に応じて他学会との共催シンポジウムの企画も進めていく予定である．

- 【経肺経鼻投与製剤 FG】

吸入剤および経鼻投与剤について，粒子設計や製剤特性評価，開発の基礎研究，製薬会社における開発の実例，投与デバイス開発の動向，薬物動態，治療に関する臨床現場での問題点について意見収集と情報交換を行う場を提供する．2025 年 10 月にはオンライン研究会を実施し，吸入剤による新しい薬物療法の可能性，吸入剤の物理薬剤・生物薬剤学的特性，欧州での吸入剤開発のトレンドなど多様なテーマを対象に情報共有するとともに，深い議論を行った．2026 年度も同様に研究会を企画し，最新の当該研究領域について情報交換ならびに活発な議論を行うことを予定している．

- 【核酸・遺伝子医薬 FG】

核酸医薬ならびに遺伝子医薬の実用化に必須である，核酸医薬・遺伝子医薬の設計，合成，分析，体内動態（ADME），安定化や標的指向化のための化学的・製剤学的工夫，臨床・非臨床試験，レギュラトリーサイエンスなどを議論する場を提供する．2026 年 3 月の日本薬学会第 146 年会では，超分子薬剤学 FG と連携し「精密デリバリー×ナノテクノロジー：融合する視点で描く核酸医療の未来像 」と題したシンポジウムを開催し，分野横断的な議論の場を設ける．また，必要に応じて核酸・遺伝子医薬 FG 主催の研究会や他の学会との共催シンポジウムも計画していきたい．

- 【薬物相互作用・個別化医療 FG 】

本 FG では，創薬研究者（基礎・臨床開発）・臨床薬剤師・審査サイドなど種々の立場から広く意見を求め，交流する場を提供し，薬物相互作用及び個別化医療に関して科学に基づいたコンセンサスを得ることを目標とする．そのためには，継続的に FG メンバーが核となり一同に会して議論できる場が必要であり，2026 年度は日本薬剤学会第 41 年会における活動（ディープダイブセッション:腸内細菌と薬物相互作用・個別化医療に関する議論を予定）のみならず他学会との交流を積極的に行いながら，共催シンポジウム（日本医療薬学会，日本臨床薬理学会等）の開催を計画している．

- 【DDS 製剤臨床応用 FG】

本邦発の DDS 製剤の臨床応用に向けた課題について，産官学の垣根を越えて議論できる場を設ける．本年度は，以下に示す活動を実施できるように準備を進めていく.①本学会第 41 年会デ

ィープダイブセッションで議論する．②第 13 回目となる合宿討論会（場所：帝京大学箱根セミナーハウス，日程：11 月予定）事前に FG 登録メンバーに討論したい内容についてアンケート調査を行い，テーマを決定し，DDS 製剤の臨床応用と最先端の研究課題に関する議論を深める．また，参加者の様々な経験や知識を共有化する場を提供する．③日本薬学会第 146 年会公募シンポジウム（2027 年 3 月下旬）DDS 製剤の臨床応用に関するトピックのシンポジウムを企画する．

- 【物性 FG】

医薬品原薬，製剤原材料ならびに製剤の物性評価技術にフォーカスをあて，技術の発展や創薬/創剤への展開についての議論・提言を行う．今年度は，医薬品原薬・製剤の特性解析に関する最新技術を取り扱うセミナーを 2 月に現地で開催する．また，日本薬剤学会第 41 年会のディープダイブセッションにて結晶に関して議論する予定である．さらに，若手研究者の研修・啓発・育成のために，物性に関する伝承実習講習会のサポートを行う．また，固体医薬品の物性評価に関する英語版書籍の製作を検討する．

- 【臨床製剤 FG】

臨床製剤関係シンポジウムの支援，日本医療薬学会をはじめとした他の学会との合同セミナー，FG のメンバーでの集合研修や院内製剤をテーマにした病院薬剤師向けのセミナーの開催を企画する．薬学会，日本病院薬剤師会と協同し，臨床製剤に関連する認定制度構築の可能性について議論を進める予定である．また，年会におけるディーブダイブセッションなどを経て臨床製剤の開発に関して企業，アカデミアとともに前進させる．日本医療薬学会 2023 年度医療薬学学術小委員会で得られた成果に基づき臨床における製剤のニーズ等について情報の発信を行う．これらの活動を通して臨床製剤 FG の活動を広報するとともに，個別化医療を支援する新規な臨床製剤開発を目指す．また，国際薬学連合（FIP）との連携を深め，国際的な認識との調和を図る．

- 【超分子薬剤学 FG】

超分子とは，複数の分子が共有結合以外の結合により，秩序だって集合した分子のことをいい，薬剤学領域でもリポソーム，細胞外小胞，多糖類，アルブミンなど多数存在する．学問として理工学領域主体の「超分子化学」と「薬剤学」との融合による「超分子薬剤学」を立ち上げ，次世代の薬剤学を創製することを目的に活動していく．2026 年度は，超分子薬剤学と IT の融合を目指した活動を継続し，日本薬学会第 147 年会における公募シンポジウムに応募するとともに，昨年度開催できなかった第 4 回超分子薬剤学 FG シンポジウムを開催する．これらの活動を通して超分子薬剤学 FG の活動を広報するとともに，新規な超分子製剤開発を目指す．

- 【小児製剤 FG】

小児製剤に関する課題は日本薬剤学会小児製剤コンソーシアム委員会，薬学部学生，チャイルドライフスペシャリスト，小児薬物療法研究会などと協力して調査・抽出してとりまとめ，小児製剤 FG の取り組みの周知と合わせ，学会誌，各種学会，および小児製剤 FG の HP などを通じて発信する．また業界団体の意見としてまとめるべき案件は，日本製薬工業協会および日本ジェネリック製薬協会とも協力する．国際的に共通するテーマについては，関連する EuPFI（欧州小児製剤コンソーシアム）の Workstreams の定例会などに小児製剤コンソーシアム委員会と協力して情報交換を行い，適切な団体や研究者と協力して課題解決を図る．小児製剤研究会を毎年開催し，小児製剤の課題・技術・レギュレーションついて薬剤学会会員および小児医療関係者と共有を図る．

- 【デジタル製剤学 FG】

人工知能に代表される各種 informatics，数理モデリング，さらに量子化学・分子動力学・流体力学シミュレーションなどのデジタル技術と製剤学分野の融合領域について，最新知見を集約・共有し，本分野の推進・発展に資する提言ならびに議論を行う．2026 年 4 月に CPHI Japan 2026（国際医薬品開発展）の製剤開発カンファレンスにて，デジタル製剤学 FG の取り組みと最新の知見共有を行う．また，2026 年 6 月に日本薬剤学会第 41 年会にて，ディープダイブセッションにて，デジタル技術と製剤学の融合領域の現状，課題および将来展開について議論予定である．加えて，2026 年 12 月には第 4 回主催シンポジウムを開催し，医薬品開発の基幹工程となる製剤開発・CMC 分野の DX について議論するとともに，当該活動を薬剤学誌にて報告し，広く知見を共有する予定である．

制度改革担当理事　（柳井理事）

1　制度改革担当事業（制度改革委員会）

- 制度改革委員会

引き続き現行制度を絶えず検証し，公益社団法人として，持続性のある制度のもとに主体的で統制された本学会の運営体制整備を進める．

また，規程等と事業との整合性を確認し，必要に応じて見直しを提案する．更に，理事会における本事業の検証を推進する．

年会長（藤田第 41 年会長）

1　年会事業

- 年会組織委員会

本学会最大の学術集会「年会」の企画運営を行う．年会では，口頭およびポスター発表による一般講演の他に，特別講演および各種の受賞講演による啓発活動，シンポジウムに加え，各 FG が議論したいテーマを提示し参加者と討論するディープダイブセッションを新設し，参加者の研鑽事業を行う．また，企業や関連機関のランチョンセミナーや企業展示会など，多彩なプログラムにより，産学官の連携を深めている．なお，定時総会もこの会期中に併催される．

1.1　第 41 年会

「Yakuzaigaku 2036：次の 10 年を見据えた薬剤学の展開」

2026 年 6 月 3 - 5 日　場所：京都市勧業館 みやこめっせ（京都市左京区岡崎成勝寺町 9-1）

学会運営（会長，事務局）

1　理事会

学会の業務執行の決定，理事の職務執行の監督等を行う機関であり，全ての理事で組織される．法人のガバナンスを担う中心的な機関である．今期の開催予定は以下のとおり．

第 1 回理事会　2026 年 4 月頃
第 2 回理事会　2026 年 6 月 2 日（予定）
第 3 回理事会　2026 年 6 月 3 日（予定）
第 4 回理事会　2026 年 9 月下旬～10 月上旬頃
第 5 回理事会　2027 年 1 月頃

2　定時総会（代議員総会）

2018 年度より代議員による定時総会が行われている. 本年度は 2026 年度～2027 年度の代議員による総会が開催される.本会は定時総会として社員総会に位置付けられ，正会員で構成される学会の最高の決議機関である．今期の各開催予定は次のとおり．

2.1　定時総会　2026 年 6 月 3 日（11:30-12:15）対面形式　場所：京都市勧業館 みやこめっせ（京都）

3　年会実施計画（次年度以降）

第 42 年会（2027 年度）以降は年会長を中心に実施計画に基づき準備を進める．

3.1　第 42 年会（2027 年度）　川上亘作 年会長
3.2　第 43 年会（2028 年度）　西田孝洋 年会長

4　その他

2026 年度における資金調達及び設備投資の見込みはなし．

以　上

報告事項2

収支予算書（損益計算ベース）
2026年4月1日から2027年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会　（単位:円）

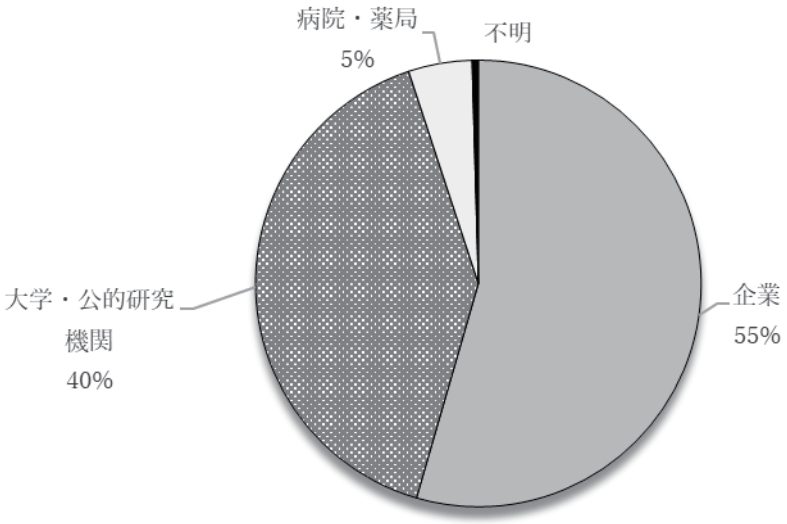
科目	公益目的事業会計	法人会計	合計
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
（1）経常収益			
基本財産運用益	0	15,000	15,000
基本財産受取利息	0	15,000	15,000
特定資産運用益	0	30,000	30,000
特定資産受取利息	0	30,000	30,000
受取会費	11,660,000	11,660,000	23,320,000
正会員	6,050,000	6,050,000	12,100,000
学生会員	810,000	810,000	1,620,000
賛助会員	4,800,000	4,800,000	9,600,000
事業収益	64,271,980	0	64,271,980
学術集会・委員会等事業収益	60,596,980	0	60,596,980
参加費	33,632,980	0	33,632,980
意見交換会費	4,095,000	0	4,095,000
助成金・補助金	150,000	0	150,000
寄付金・協賛金	2,099,000	0	2,099,000
セミナー共催金	6,880,000	0	6,880,000
講演要旨集等販売料	3,000	0	3,000
広告料	1,432,000	0	1,432,000
出展料	12,305,000	0	12,305,000
学会誌等出版事業収益	1,070,000	0	1,070,000
購読料	400,000	0	400,000
投稿料・別刷料	70,000	0	70,000
許諾料・使用料	600,000	0	600,000
広告料	0	0	0
学会賞等表彰事業収益	1,615,000	0	1,615,000
助成金・補助金	0	0	0
寄付金・協賛金	0	0	0
指定正味財産からの振替	1,615,000	0	1,615,000
製剤技師認定事業収益	990,000	0	990,000
受験料	660,000	0	660,000
認定料	330,000	0	330,000
雑収益	325,018	280,300	605,318
雑収益	325,018	280,000	605,018
受取利息	0	300	300
経常収益計	76,256,998	11,985,300	88,242,298
（2）経常費用			
事業費	86,341,748		86,341,748
給料手当	8,560,000		8,560,000
臨時雇入金	5,312,250		5,312,250
法定福利費	1,480,000		1,480,000
人材派遣費	**880,000**		**880,000**
福利厚生費	**571,200**		**571,200**
会場費	19,584,000		19,584,000
旅費交通費	5,645,000		5,645,000
会議費	1,609,000		1,609,000
意見交換会費	7,963,000		7,963,000
賞状・賞牌・副賞費	2,255,000		2,255,000
通信運搬費	1,742,715		1,742,715
ウェブサイト管理費	1,684,000		1,684,000
消耗品費	1,411,717		1,411,717
減価償却費	0		0
印刷製本費	7,049,000		7,049,000
貸借料	1,803,080		1,803,080
保管料	0		0
保険料	**65,000**		**65,000**
諸謝金	4,442,204		4,442,204
租税公課	32,032		32,032
支払負担金	1,269,000		1,269,000
業務委託費	10,812,000		10,812,000
雑費	2,171,550		2,171,550
管理費		9,250,320	9,250,320
給料手当		2,140,000	2,140,000
法定福利費		370,000	370,000
人材派遣費		**220,000**	**220,000**
福利厚生費		**142,800**	**142,800**
旅費交通費		330,000	330,000
会議費		100,000	100,000
通信運搬費		1,656,000	1,656,000
ウェブサイト管理費		272,000	272,000
消耗品費		350,000	350,000
印刷製本費		125,000	125,000
貸借料		434,520	434,520
租税公課		1,500,000	1,500,000
業務委託費		420,000	420,000
公認会計士報酬		990,000	990,000
雑費		200,000	200,000
経常費用計	86,341,748	9,250,320	95,592,068
当期経常増減額	−10,084,750	2,734,980	−7,349,770
当期一般正味財産増減額	−10,084,750	2,734,980	−7,349,770
一般正味財産期首残高	10,501,297	21,461,951	31,963,248
一般正味財産期末残高	416,547	24,196,931	24,613,478
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取寄付金・助成金	1,500,000	0	1,500,000
一般正味財産への振替額	−1,615,000	0	−1,615,000
当期指定正味財産増減額	−115,000	0	−115,000
指定正味財産期首残高	832,230	20,000,000	20,832,230
指定正味財産期末残高	717,230	20,000,000	20,717,230
Ⅲ 正味財産期末残高	1,133,777	44,196,931	45,330,708

会員管理報告

会員数の年間増減状況(2017 年 4 月－2026 年 4 月)

会員種別	会員数									
	2017 年 4/17	2018 年 4/18	2019 年 5/8	2020 年 4/15	2021 年 4/15	2022 年 4/15	2023 年 4/15	2024 年 4/15	2025 年 4/16	2026 年 4/16
正会員	1382	1387	1368	1316	1250	1183	1160	1150	1130	1105
学生会員	517	563	521	511	461	413	395	390	395	434
名誉会員	3	3	3	3	2	1	1	5	5	5
合計(人)	**1902**	**1953**	**1892**	**1830**	**1713**	**1597**	**1556**	**1545**	**1530**	**1544**
賛助会員(口)	99	100	102	106	103	100	102	101	97	95

会員の所属別比率



正会員　1105 名所属別人数
企業:602 名
大学・公的研究機関:447 名
病院・薬局:51 名
不明:5 名